

文化財を守り、修復技術を伝えるため 家族一丸となって取り組む

江戸表具 有限会社アイディ・タナカ

江戸時代に大名のお抱え表具師として開業し、その技を継承してきた田中家。時代に合わせて有限会社アイディ・タナカとして内装業を請け負ってきたが、同時に家業である表具師として多くの貴重な文化財の修復を手掛けてきた。今、「表具」という言葉も知らない人が増えている中、修復技術を伝えるため、家族一丸となって取り組む。



成澤啓予さん（後列中央）と父母（前列）、長男崇元さん（右）、次男雅仁さん（左）。笑顔の絶えない和やかなご一家

江戸表具 有限会社アイディ・タナカ

職人：成澤啓予

所在地：東京都中野区弥生町1-8-2

T E L : 03-3372-5975

E-mail : info@idtanaka1964.com

U R L : www.idtanaka1964.com

10代目となる表具師の成澤啓予さんは、父の田中正武さんと共に、江戸期より出入りしている目黒祐天寺の寺宝修復、千葉の古刹・大蔵寺の釈迦三尊図、徳川家と縁の深い勝願寺の襖張替えなど由緒ある寺院の文化財修復や、渋沢栄一をはじめとした著名人、文人墨客の書画の修復を数多く手掛けてきた。「貴重な文化財を後世に残す」、そのための技術を伝承しているが、表具の現状には危機感を抱

いている。「60代以下の多くの方が「表具」という言葉自体を知らず、襖や障子の張替えも減っており、このままでは職人も育たない」。また古い掛軸などを保存するには定期的な修復が必要だが、そういったことを知ってもらいたいと、まずは身近なところからの発信を試みている。

東京都の職人ステップアップ事業を活用して、店舗の一部を江戸時代から伝わる「からくり屏



10代目として貴重な技術を伝える成澤さん



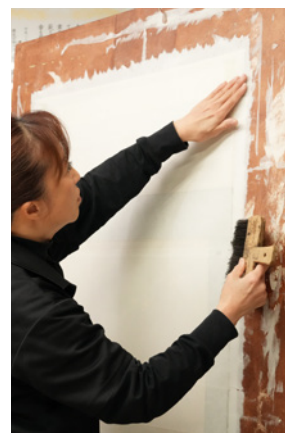
倉庫が生まれ変わって体験スペースに



ガイドを当てて襖紙を裁断する作業



修復のため襖の引手を外す



糊刷毛で糊をつける作業



長男の崇元さんは表具師を目指して修行中



多様な糊刷毛を用途に応じて使い分ける

風」の製作体験ができるスペースに改装。小学生や海外からの観光客など、様々な人が表具に触れて、理解を深められる場とした。

この事業は成澤さんの大学生の次男、雅仁さんが担当。体験教室のチラシ作りなどに積極的に関わっており、将来は家業に携わりたいとのこと。また、長男の崇元さんはすでに社員として活躍中で職人を目指して修行中。「職人が減っている今は、

逆に一人勝ちできるチャンス。修復の仕事は生半可な修行では出来ないからこそ、出来る人に強みがある。手で物を作る仕事に就くことは楽しい」と。

有限会社アイディ・タナカとして表具の技術を継いできた田中家だが、昨年、伝統工芸部門をかつての社名であった「田中表具店」として新たに会社を設立。頼もしい2人の後継者にも恵まれ、「江戸表具」の今後が期待される。